

三条日本語教室を地域日本語教室に(実践活動報告)

1 実践を通して「行ったこと」

- (1) 三条日本語教室を地域日本語教室にするために、京都市国際交流協会日本語教育推進事業『日本語学習に関するアンケート報告書』(2021年2月発行)を基に、「外国人住民のニーズ調査」を作成。この「外国人住民のニーズ」を教室運営に生かしていきたい。

京都市における kokoka 日本語教育推進事業

- (2) 現在の三条日本語教室(日曜日午前開室)を地域日本語教室にするため、ボランティア全員の意見交換会実施(11月21日)

日本語学習に関するアンケート
報告書

- ① 協会の総括コーディネーターに参加を依頼、2名参加。
- ② 現在の教室を、外国人住民が生活の日本語を学ぶために集ってくる「地域日本語教室」にすることについてコーディネーターとして協会に提案した。
- ③ ボランティアとして長い経験がある我々は、学習者に寄り添って教室をやってきた。「地域日本語教室」の趣旨も理解できる。ボランティア全員の賛同を得た。



マスコットキャラクター
kokoka

kokoka

2021年2月15日

公益財団法人 京都市国際交流協会

【現教室の問題点を全員で共有】

- ④ 2022年7月から教室「京都市東山いきいき市民活動センター」の使用料の値上決定
 - ⑤ 1か月の使用料率が6倍に。運営困難になる。⇒本格的に教室の場所探し
 - ⑥ 学習者を増やす。2022年1月現在、定着している学習者3人 SNSで教室を宣伝する。ポスター、チラシにQRコードを付ける。
- (3) 地域日本語教室に対応するボランティアの募集(12月6日)
結果、応募者3人
協会主催の人材育成「日本語学習支援者育成研修」修了者2名(内大学生1名)
協会の「オンライン日本語」のボランティア大学生1名
三条日本語教室を見学後、活動開始(12月26日から)
- (4) ボランティア全員会議を召集(12月19日)
- ① 地域日本語教室を運営するため、役割分担を決める。
 - ② 教室の年間行事(予定)を決める。
 - ③ 広報活動「ポスター、チラシ」内容の見直し。配布先を明確にし、各人が責任を持ち配布行動をする。
- (5) 立ち上げ準備中の日本語教室を見学(1月14日)京都市伏見区
京都府内に6000人(京都市内3150人)在住するベトナム人のためのレストランや食材店が増えている。その所在地や技能実習生の実態などの情報を得た。

文化庁 令和2年度「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」活用



2 実践を通して「考えたこと」

本年7月から使用する教室の場所探し。公共施設を4か所、商店街振興組合に話をしたが、使用料が折り合わない。協会の総括コーディネーターと協働で場所探しを継続中。

- ① 教室の借上げ時間短縮、②学習費の値上げ、③毎回の学習者を増やす。

時間短縮は行事をする時は無理。場所が安定するまで②③で厳しい状況を乗り切ることにする。

教室運営について、主体は「だれか」、三条日本語教室。内容は「毎日生活に使う日本語」を加えて、日本語

学習は、「学習者と話して決める」とし、「1対1」の対面。「日曜日、2時間」の教室とした。さらに、協会の総括コーディネーターと緊密に連携を取りながら、教室の運営に取り組むことを決めた。

しかし、教室運営にコストがかかることを、具体的に考えてこなかった。コロナ禍の前は、学習者が多く、教室使用料も安価であり、運営ができていた。協会に対して、地域日本語教室運営のための助成金が得られないか、働きかけた(12月19日)。

3 今回の課題解決に向けた実践を通して、コーディネーターとして果たした役割

自分たちで立ち上げた教室を、地域日本語教室として運営する。ボランティア全員が外国人住民を支える日本語学習支援者として活動していくことで一致できた。さらに、スキルアップのために、協会主催の人材育成研修「日本語学習支援者育成研修」の受講を勧めた。ボランティアが2人受講(既研修受講者2人)。

4 地域日本語教育コーディネーターとして自身が大切にしている視点

- 1 日本語ボランティアを若者に広げたい。近隣住民として生活し、労働者として働いている外国人の存在を知ってほしい。
- 2 外国人の日本語ボランティアの採用。「外国人の私が、外国人のためにできることがあるのは、うれしいこと。日本語を教えていただいた教室を手伝えることは、うれしいことです。」(大学教員)
- 3 地域日本語教育コーディネーターとして、教室のボランティア全員に求めることは、学習者の表情や態度を見て、「教室の学習者はみんなともだち」の気持ちを持つこと。積極的に「生活の情報」を提供すること。この視点が、次回の参加に繋がり、日本語の習得を早めることになる。

5 実践において難しいと感じたこと。今後に向けて知りたいこと。

協会の総括コーディネーターとの連携・協働がなければ地域日本語教室の運営はできない。実践を通して状況を説明し、経費及び収入見込みを報告した(1月9日)。その結果、協会から「ココカ日本語教育推進事業」の「運営支援助成金」を受けることが決まった(2月12日)

教室運営のため、広報活動を積極的にして、学習者を増やす。しかし、「教室の様子をSNSで発信する。」「オンラインで教える」などには、前向きでないボランティアもいる。協会が実施する「オンライン日本語ボランティアを始めよう」(2月26日)の研修に参加するように働きかけ、「対面」と「オンライン」どちらでも学べる教室にするように、ボランティアのスキルアップに積極的に働きかけていく。

「今後に向けて知りたいこと」

在留資格「特定技能」の人が増加している。JLPT2級に合格。「職場に20人ベトナム人がいる。日本語の勉強はしない。私は友達がいらない。」という現場がある。在留資格「特定技能」について、学びたい。

三条教室活動行事予定表 (2022年1月~12月)

1月16日 「新春邦楽演奏会」 京都府立文化芸術会館 (学習者2人 参加)

1月30日 節分の行事「ボランティアの話と豆まき」

3月 花見 (背割り桜) 三条大橋(昨年3月学習者4人参加)

5月 「藤の花」見学

7月3日 七夕祭り 笹飾り(教室内)

7月17日 祇園祭鉦巡行見学

10月 紅葉(場所未定) ウォーキング

11月3日 京都市国際交流協会 オープンディ

その他 「お別れ会」(2021年11月21日実施)

